



松原公園にあずまや完成

レンドリースジャパン復興支援で寄贈

南三陸

松原公園に設けられたあずまや

南三陸町の松原公園に、あずまや(レンドリーステラス)が設置された。東日本大震災後、町内で復興支援活動を行ってきた建設コンサル会社レンドリースジャパン(東京都)が寄贈したもので、21日には現地で行われた完成式典が行われ、関係者が憩いの場の機能充実に期待を寄せた。

あずまやは、野球グラウンドと陸上競技用グラウンドの間にある三角地に造られた。延べ床面積は170平方メートルで、コンクリート床の回廊にベンチを設けたのが特徴。公園内を見渡せる高さ5メートルの展望台も設けられた。

約20人が出席した式典で、同社のアンドリュー・ガウチ社長は「地域の皆さんに少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたい。活動を通して築いた南三陸との関係を今後も大切にしていきたい」などとあいさつ。テープカットで完成を祝福した。

た。佐藤仁町長は「野球や陸上愛好者だけでなく、老若男女、全ての町民に利用してもらえ、立派なあずまやを建てていただいた。今後、町民同士が支え合い、交流を続けていき

たい」などと感謝した。レンドリース社は、仮設図書館「コアラ館」の設計に協力したのを縁に2013年以降、町内での漁業支援や平成の森仮設住宅団地ののお茶会など、復興支援活動を展開してきた。

震災から10年を区切り、活動を休止することにしており、あずまやは支援の集大成として申し出た。総工費は1千万円。設計は社内